

『今後の自動車業界の展望について』

高知トヨタ自動車株式会社
取締役総務部長 小松伸滋



こんにちは！高知トヨタ自動車の小松伸滋と申します。今期より労務管理者協議会で皆さまにお世話になることとなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、私の自己紹介をさせていただきます。この記事が掲載されるのが11月とお伺いしておりますので掲載月で還暦を迎えることとなります。長きにわたり大きな怪我や大病も患わずに過ごしてこられたことに感謝をしているところです。最近では、愛飲のハイボールの量も身体のために控えつつ趣味の釣りやゴルフを人並みに嗜むことで、程よく息抜きしながらこれからも健康でいられるように精進していこうと思っています。

私は、自社に入社し約40年自動車業界に携わってまいりました。今思うとなかなかの感慨深さです。自動車が好きで自動車整備士を目指してこの業界に入りいろいろな車両（乗用車・タクシー・商用車・緊急車両・特殊車両等ほとんどの車両）を整備させていただき、今では大変貴重な経験をさせてもらったと感謝しています。その後は、サービス工場長・サービス受付・店長職・部門責任者等各部門を経て今期の6月より総務部に着任いたしました。車の知識は、それなりに蓄えておりますので皆さまの中で何か自動車の事でご質問がありましたら遠慮なくお問い合わせください。

それでは、本題へと入っていきます。現在“自動車業界は、100年に一度の大改革”といえる変革期に突入しています。当たり前のようにガソリンや軽油を使用し走行していた原動機付き自動車から化石燃料を使わず電気や水素を主体としたモーター駆動で走行するCO2排出ゼロの自動車が世の中を席捲しはじめたことで、業界の常識が覆りつつあります。各自動車メーカーも地球温暖化防止に向けてEV自動車へのシフトを表明しており、次世代エネルギーを模索し環境に配慮した自動車の開発に取り組むことになっていくと思います。運行走行においても自動運転がレベル4まで進展しており、今後近未来には完全自動運転で高速道路を走行してくれる車両が発売されることでしょう。

振り返ってみると私が入社した昭和の時代から半世紀もたないうちに安全面・環境面に貢献するような技術は急速に

発展してきましたが、反面技術革新により軍事産業にも用いられ多くの犠牲者が出ていることもしっかりと受け止めなければなりません。人類の平和のための新技術だけであってほしいものです。

現実に戻りましょう。現在自動車業界は、さきほど触れたように日進月歩の勢いで新技術開発が行われて現場に投入されています。問題はその後です。自動車はより快適に運転できるようになってきましたが一方では、車両販売後のアフターサービスを支えていく自動車整備士の不足が徐々に露呈し始めているのです。過去には、機械いじりが講じて自動車整備士を目指した若人が多数いたわけなのですが（私もその一人です）、近年は自動車整備士を志してくれるような若人が急激に減少しています。自動車整備士を目指してくれなくなった要因は、「コンピューター制御で車両自体のカスタマイズができなくなった」とか「個性(魅力)のある自動車が減少した」とかいろいろとありますが、このような状態が続くと保有台数に対して自動車整備士の数不足に陥ってしまいます。その挙げ句には、整備難民のような方々が増加することが予測されます。例を挙げると現在車検整備は、1日か2日あればユーザーのもとに整備完了で戻るのでありますが、今後は、「車検整備を依頼するのに1週間から10日もかかった」など今まで以上に整備に時間を要するようになるかもしれません。都会のように交通機関が発達していない高知県での移動手段の足として自動車は欠かせないのが現状です。

当社では、多くの学校を回り「自動車関連の仕事の魅力」を伝えることで、一人でも多くの学生や自動車専門学校からの外国人留学生が自動車整備に興味をもち整備士を将来の職として選んでもらえるよう積極的に取り組みしていますが、個々の企業努力だけでは、少子化が進んでいる中で人材を確保することが厳しい現状です。

今後は官民一体となり、より具体的な対策を講じてこの問題を解決するべく足並みを揃えた取り組みを実践していきたいものです。